

企業型とクラブ型チームが混在したリーグのあり方に関する研究 ーバレーボールVリーグに着目してー

The study of mixed league consisted of company teams and club teams
- Focused on V. LEAGUE -

スポーツクラブマネジメントコース

5014A320-1 林 孝彦

研究指導教員：間野 義之 教授

1 緒言

国内球技競技において、プロリーグや企業型リーグがある中、企業型とクラブ型チームが混在したリーグが増加傾向にある。このような背景において、リーグ経営に関するスポーツ研究においては、スポーツマネジメント、ファイナンス、ガバナンスなどスポーツビジネスに関連した多くの分野での研究がなされている（原田，2008；松岡，2010；武藤，2008）が、リーグ経営として、チーム理念と運営構造の分析及びリーグに対するチームの捉え方を分析した研究はあまりみられない。そこで、本研究は、2014/15V・プレミアリーグに参加している 16 チームの理念と運営構造を経営資源の観点から明らかにし、チームが現状のリーグ運営や今後のリーグの進むべき方向性に対してどのように捉えているかを明らかにすることを目的とする。

上記の点を明らかにすることは、スポーツマネジメント研究やスポーツ組織研究としての事例提供として、また、国内リーグの今後の制度移行を検証する際に有用なエビデンスとなるだろう。

2 研究方法

2014/15V・プレミアリーグに属する男女各 8 チームの代表者（部長あるいは GM 格）を対象（表 1 参照）に 1 対 1 の半構造的、深層的、自由回答的インタビュー（約 1 時間）により実施した。

調査項目は、チームの理念、経営的資源（人、金、モノ、情報）やリーグ運営についてであった。

また、分析方法は、質的データ分析法を用いて分析を行った。その際、Vリーグは、男子と女子チームが参戦するリーグであるため、男女に分けた分析も行った。また、特筆すべき点については、クラブ型チームと企業型チーム、企業型チーム内での分析を行った。

表 1 調査対象者リスト

男子チーム	役職	実施日	女子チーム	役職	実施日
Aチーム	部長	9月19日	Iチーム	部長	9月22日
Bチーム	部長	9月23日	Jチーム	副部長	"
Cチーム	GM	9月23日	Kチーム	部長	9月25日
Dチーム	部長	9月29日	Lチーム	GM	9月25日
Eチーム	部長	9月29日	Mチーム	部長	9月26日
Fチーム	副部長	9月29日	Nチーム	副部長	9月28日
Gチーム	副部長	10月1日	Oチーム	GM	"
Hチーム	GM	10月1日	Pチーム	部長	9月28日
				事務局長	9月30日
					10月2日

3 結果と考察

「理念」については、男女計 16 チーム中（複数回答あり）、「一体感の醸成」が 10 チーム、「士気高揚」が 6 チーム、「シンボルスポーツ」が 4 チームとなった。企業スポーツの誕生当時の理念が現在にも継承されていることが考察される。

「人」におけるフロントスタッフである部長については、部長がチームマネジメント業務を専任として携わる者は、男女チームを合計すると 2 チームと少なく、社業との兼務者が 12 チーム、その他のスポーツ部署、チーム監督との兼務が 2 チームであった。また、ゼネラルマネージャー格（以下；GM格と称す）については、チーム代表者の部長と共にチームマネジメントの責任者的存在であり、ここでは、男女間に違いがみられた。GM格の専任者を置いているチームは、男子 3 チームに対し、女子は 6 チームであった。GM格の社業との兼

任者においては、男子の 4 チーム (8 名) に対し、女子は 2 チーム (3 名) であった。チームマネジメントを行う際に、部長が専任者であれば業務遂行は比較的効率よく運ばれるが、兼任となると業務の時間調整において苦慮する。そのため、部長が兼任の場合、GM 格を専任者として配置することが理想と考えられ、本研究の結果では、男女計 8 チームが実施体制となっている。この結果は、チーム活動費の重点項目として強化費があるためと考えられる。

「情報」については、企業型チームにおける後援会 (ファンクラブ) には、社員やグループ会社を対象とした内向きな個人・法人後援会と、チームを支援、応援するファンや一般企業向けの外向きな個人・法人後援会が存在する。一般の外部向けの後援会 (ファンクラブ) を持つチームは 9 チームあり、個人後援会のみが 6 チーム、個人・法人の二つを持つ後援会が 3 チームとなった。また、母体企業やグループ関連企業 (内部向け) 向けの後援会 (ファンクラブ) を持つチームは 8 チームあり、個人後援会のみが 4 チーム、個人・法人の二つを持つ後援会が 4 チームとなった。一般向けのファン拡大には消極的であり、個人情報取り扱いなどの会員管理の難しさ、会費の対価に見合った還元などが見込めないのも後援会組織を発足させない要因でもあると考えられる。

次に、リーグ運営について、チームは現状の企業型チームとクラブ型チームが混在するリーグに対し 11 チームがチーム間に課題はないとし、リーグとチーム間においても 10 チームが課題を感じていない。また、混在型リーグでの共存共栄は、9 チームが現状維持となった。

地域名入りのチーム名をつけることに対しては、困難との回答が 6 チームとなった。しかしながら、今後検討が 4 チーム、可能性ありが 4 チームとなり、すでに実施・賛成の 2 チームを合わせると 10 チー

ムに可能性がある。企業型チームには、企業名自体に地域名称が含まれるチームが 5 チーム存在している。チームの分社化については半数の 8 チーム、チームのプロ化については 6 チームが困難との回答があった。

4 結論

本研究は、2014/15 V・プレミアリーグ男女 16 チームの、理念と運営構造を経営資源の観点から明らかにすること、チームが現状のリーグ運営や今後のリーグの進むべき方向性に対してどのように捉えているかを明らかにすることを目的とした。

その結果、経営資源における人、金、モノ、情報に対して、「人」は更なる最適化、「モノ」は恵まれた環境、そして「情報」は支援者とファン拡大の情報活用がチーム運営にとって重要となることが明らかになった。現状のリーグにおいては、企業型とクラブ型チームの混在型リーグの共存共栄をはかり現状維持を望む結果となった。今後の方向性については、チームに地域名をつけることへの抵抗感は低いが、チームの分社化やプロ化についても、困難と回答したチームと今後検討すると回答したチームがそれぞれ同程度存在した。

本研究の調査において得られた知見より、リーグの繁栄と拡大、国際競技力の向上を成し遂げていくには、現状の企業型とクラブ型チームが混在した中での「プロリーグ」を検討する必要がある、そのためにはチーム理念とリーグ理念において方向性が統一された新たな理念の構築が必要と考える。